

# 2016年度 センター試験 英語リスニング(本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 約 30 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：25 問
難易度の変化（対昨年）	● 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	● あり	○ なし
新傾向の問題	● あり	○ なし

### 総評

大問数、解答数には変化がなかったが、第 3 問、第 4 問に出題形式の変化があり、新傾向の問題が出題された。今年度より新課程での試験となったが、「授業は英語で実施すること」とする、新課程のポイントを踏まえた出題ではないだろうか。

変更点は次の通りである。①第 3 問 B で出題されていた表・グラフの完成問題が、設問に答える形式に変化した点。②第 4 問 B の長めのモノログを聞き、3 つの問いに答える問題が第 4 問 A に移動した点。③第 4 問 B では新たに 3 人の会話を聞き取り、問いに答える問題になった点。

上記のような劇的な形式変更に加え、形式の変更がなかった問題も難易度が上昇している点を考慮し、全体として「難化」と判断した。

高得点を狙うには、普段から文字(スクリプト)に頼らずに音声を正確に口頭で再生する練習をすること、口語表現に慣れることに加え、正確な発音を身につけておくことも必要である。

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	短い対話を聞き、答えとなるイラストや数値を選ぶ問題	12 点	around, above, under などの位置関係を表わす表現に瞬時に対応することが求められる問題、計算問題で足し算を 2 回必要とする問題などが出題された。このため難易度は昨年より比して上がったと言える。また、解答のポイントとして聞き取らなければならない部分が長いものがあった。
第 2 問	短い対話を聞き、続く応答を選ぶ問題	14 点	聞き取る分量や、問題形式は例年通りだったが、第 1 問と同様、解答のポイントとして聞き取らなければならない部分が長いものもあり、長めの英文を口頭再生する練習が得点のカギになったと思われる。
第 3 問 A	対話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	発話数は例年通り。1 文の長さも大きく変化していなかったので、落ち着いて聞きとることがポイントであった。
第 3 問 B	対話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	ピザのチラシを見ながら夫婦が注文の相談をしている会話を聞き、設問に答えるという新形式の問題。6 種類のピザのどれが割引になっているかが、わかりづらかった。また、様々な食材の名前が立て続けに聞こえてくるため、頭の中で和訳をしながら聞く余裕はなかったと思われる。
第 4 問 A	長めの英文を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	例年第 4 問 B で出題されていた、長めのモノログを聞き、3 つの問いに答える問題が A で出題された。内容は例年のような講義ではなく、来客の手土産についてのエピソードであり、決して難しいものではないが、1 文が長いため、断片的に聞き取れているだけでは対処できない問題だった。
第 4 問 B	3 人の会話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	3 人の会話を聞き、3 つの問いに答えるという新形式の問題。1 人の発話が長く、予算の使い方について様々な案が立て続けに聞こえてくるため、いちいち日本語に訳そうとしていると、途中からついていくのが苦しくなったと思われる。